

すっかんぽ

1991年6月号

シュレーゲル氏のアオガエル Schlegel's Green Tree Frog

大学時代の同級生で、カエルが好きな友人がいる。

カエルが好きといっても、別に食べるわけではなく、飼うことが好きなのである。そして、高校時代に飼っていたというシュレーゲルアオガエルの話もよく聞かせてくれた。

友人「シュレーゲルアオガエルっていうのはな、土の中に泡につつまれた卵を生まんだよ」

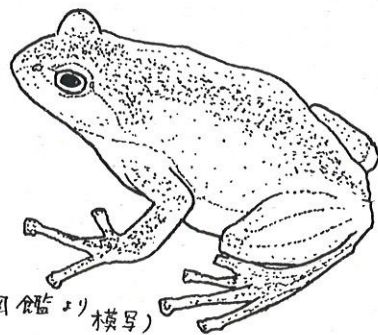
---「あれ、それって有名なモリアオガエルとちがうの」

友人「うん、モリアオガエルは土の中じゃなく、木の上に産卵するんだ。でも、泡状の卵は、区別できないほど似てるんだよ」

---「ふーん、ところで、シュレーゲルってのは、どういう意味なの」

友人「人の名前。標本を研究したオランダ人のシュレーゲルにちなんで、ついたらしい。つまり、シュレーゲル氏のアオガエルってこと」

もう何年も前の会話であったが、シュレーゲルという知的な響きが妙に頭にこびりついていて、一度見てみたいとは思っていたがモリアオガエルに似てるんじゃないか。この辺にはまあ、いねがんべなという気もしていた。



(日本カエル図鑑より横写)

それが思わぬことから、食願のシュレーゲルと対面することとなったのである。

5月30日の放課後、生物部員とトウキョウサンショウウオの調査に行、た時のことだった。ふ化の様子を確認していると、田んぼの持ち主で調査に協力してくれていたおじさんがなにげなく、「今年は去年よりだいぶ産んでるね、田んぼのすみ、にもカエルが白い卵産んでたよ」と話かけてきた。「なに、白い卵だあ、何で卵が白いんじゃそりゃ、ちょっと見まがいでないの」と思いつつ帰りたくを始めた。すると突然、頭の中で「カエルの卵 → 白い → 泡 → シュレーゲル」という連想がひらめき、思わず田んぼのすみに目もむけた。「お、お、お... あ、あれは、シュ、シュレーゲルの卵じゃ、こんな所にいたんか。」

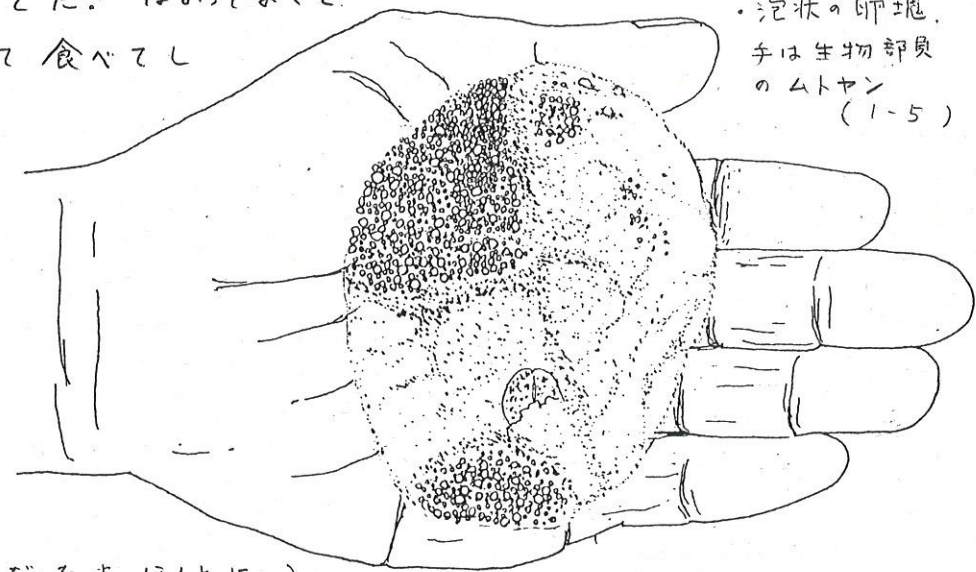
よくみると水を入れた水田のあちこちに、こぶし大の泡がぷかりぷかり浮いている。何と今年になって何十回と足を運んでいいる一番身近な場所に、シュレーゲルは産卵していたのであった。おじさんは、我々のために、トラクターを出してくれ田んぼのまん中あたりにあ、た卵もと、てきてくれた。聞けば、2日前、田んぼに水を入れたら、土の中に、産んであ、た卵がうかんできた、ということだ。ほおっておくと、

カラスがつついて食べてしまふのだそうだ。

ところで、おじさんも、卵さがしに熱中してしまい、会合におくれてしまったらしい。そこまじしてくれたおじさん

ありがとう

(今日は最高の日だったよ、ほんとに)



・泡状の卵塊、手は生物部員のムトヤン(1-5)